

## 第121回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：令和8年1月21日（水） 15:00-17:00

2. 場所：中央合同庁舎4号館 共用第3特別会議室

3. 出席者

(1) 委員

後藤委員長、常田委員長代理、青木委員、片岡委員、櫻井委員、白坂委員、松尾委員

(2) 内閣府

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：

風木事務局長、渡邊審議官、猪俣参事官、三上参事官

(3) オブザーバー

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：山川理事長

(4) 関係省庁等

内閣官房内閣衛星情報センター：室伏管理部長

総務省国際戦略局：柴山官房審議官（国際戦略局担当）

文部科学省研究開発局：坂本局長

農林水産省技術会議事務局：東野研究総務官

経済産業省製造産業局宇宙産業課：高濱課長

国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室：阿部室長

環境省地球環境局：関谷局長

防衛省大臣官房：吉野サイバーセキュリティ・情報化審議官

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：奥野理事

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：石田宇宙戦略基金プログラムディレクター

4. 議事（○：意見等）

(1) 令和8年度宇宙関係予算案等について

<各省より説明>

○常田代理

内閣府資料の1-1で、来年度予算がインフレレート2～3%よりだいぶ大きい12%増ということで大変喜ばしいのですけれども、いろいろなところから聞くと衛星開発費が大幅に上がっていて、ここ数年間のスパンでは、通常では考えられない数10%増になっており、予算が実際に増えているのか、名目は増えているけれども実質は下がっているの

ではないかという心配があります。例えばJAXAとかCSICE、今まで計画していたことが、予算が増えていても実施できないという状況がないかどうかを、コメントいただきたいというのが一つです。

もう一つは、各省庁から、Kプロ、SBIR、JAXA基金等を実施していますという御報告があったわけですがけれども、いろいろ審査に当たってみますと、入口でアイデアはいいからこれやってみようとなるのだけれども、出口でなかなかお客さんが見えないということで苦戦しているのがあります。これが特定のプロジェクトの例なのか、もう少し一般的に苦戦するのかがまだ見えないのですけれども、各省庁におかれては、基金事業を実施するだけではなくて、特に利用官庁ですね、出口に関心を持って、事業者とインタラクトしていくという必要があると思います。今回の各省庁の資料に記載するには時期が早いのですけれども、いずれ出口で対応していくためには予算が要るわけで、出口の頭出しの施策を、そろそろ記載していただく必要があると思うので、内閣府にまとめてコメントいただきたいと思います。

#### ○風木局長

前半の衛星開発費については、JAXA、CSICEを御指名なので、後でお願いします。

我々としては、宇宙基本計画の2年半前の計画の中に、契約条項の見直しで原材料費や燃料費を検討することや、フロントローディングという話を入れております。その後、工程表の見直しもあって、個々でJAXAや関係ユーザー、開発者とのコミュニケーションが進んでいるということでもあります。具体的な御指摘なので、またJAXAとCSICEのほうからもお答えいただきたいと思います。

それから、ユーザー官庁との連携については、工程表の説明時に少し御紹介いたしましたが、リモートセンシングに関するタスクフォースを小野田大臣に議長をやっていただいて12月2日に開催しております。開発側であります文部科学省、経済産業省、総務省、それからユーザー側であります今日御出席の関係省庁とコミュニケーションを取りながら、具体的な衛星データをどういうふうに活用できるか、予算要求にどうやって反映できるか、あるいは予算交付要綱の中で衛星の利活用が入れられるかどうか、割とテクニカルで地道な作業なので、各部署、各課とコミュニケーションを宇宙事務局のほうでも取っているということでございます。

#### ○山川理事長

まず、全体の計画については基本計画工程表で示されているとおりでして、若干の遅れはありますけれども、当初考えていたものはできるだけ想定どおりに進めるという計画になっているかと理解しております。

その上で、様々な物価高騰の中で、我々として考えるべきは、もちろん着実にプロジェクトを進めるだけではなくて、民間企業の利益もちゃんと確保するという観点、双方が必要でして、絶妙なバランスを取りながら進めようとしているところでございます。

その結果として、政府全体におかれましては、このように非常に多くの増額ということ

になっておりまして、我々としても大変感謝しているところでありますので、引き続き関係各所と御相談しながら進めているという状況でございます。

○CSICE

委員御指摘のとおり、物価高騰の影響は衛星開発のほうにも出てきておるのは事実でございますけれども、今実施しているプロジェクトに関しましては既に調達等が大分前に終わっているものが多くございますので、むしろ今後開発する衛星につきまして物価高騰の影響が出てくる可能性はあると考えているところでございます。

したがいまして、私ども内閣衛星情報センターといたしましても、今後、これまで以上にしっかりと予算確保に努めていく必要があると考えておるところでございます。

○片岡委員

予算はもう1兆円を超えるということで、本当に御苦労さまでした。

お聞きしたいのは、来年、高市総理が補正予算をなくしてしまう、本予算一本でいく形にしようとするというような、私も正確ではないのですが、その辺がどうなるか。本予算で縛るとシーリングには結構厳しくなります。その辺、令和9年度予算は難しくなるなという感じはしています。

あとは、スピード感を持っていく必要があると考えており、私は日本のスタートアップと海外のスタートアップはこの5～6年でまたすごく差が開いてきたなという感覚でございます。できる限りスピード感を持ってコンステレーションの数を揃えていかないといけない状況だと考えています。フィンランドのICEYEでは2027年には100機のコンステを構築するという話もあり、Capella Spaceなど含めて海外のユーザーがICEYEになびいてしまっているという状況になっていますので、そういう状況の中で日本のメーカーは戦うといったところがポイントになります。いろいろな機会を捉えて、スピード感を持ってやっていく必要があるということと、あと先ほどもありましたけれども、行政事務の効率化に向けた取り組みが重要です。それから水稻の収穫量などのデータ利用がありますけれども、こういうものも誰が主体になるのですかという疑問があります。実証が終わった後、事業主体はどこがやるのですか、民間がやるのですか、官がやるのですかといったところも含めて見ていく必要があると思いますので、その辺は工程表の中に書かれてくると思うので、工程表でよくよく注意して見ていく必要があるかなという感じがします。

○風木局長

まず当初予算と補正予算の関係です。総理の最近の会見の中に、補正予算が非常に多い中で、当初予算にできるだけ移すような議論が出ておりました。これは国会でも同様の議論はありますが、まだ具体的な形でこういうふうにするという形に決まったものではないので、これから政府内での議論、それから国会での議論などを注視しながら考えていきたいなと我々としては考えています。これは宇宙だけに限らずあらゆる分野に関係する話でございますので、できるだけニーズに合った形での予算確保が基本的な方針です。

2つ目のスピード感も全く御指摘のとおりなので、急激にコンステレーションの数字の

額が非常に増えている中で、日本政府としてどうするかという議論が重要だと考えています。今回の補正予算の審議の中でも緊要性の話が出ていまして、まずは我々としては緊要性でお認めいただいた予算をしっかりと執行していくことが必要であり、ここには先ほど総務省から御紹介がありました低軌道コンステレーション、まさにインフラ整備で、研究開発段階からもう設備投資、実際の運用、インフラに投資することになっていますので、直ちにコンステレーションを構築するということですから、こうしたものが実際の補正予算の執行としてスピード感を持ってやるということになると思います。あるいは、もう一つ経済産業省のほうのサプライチェーン強靱化の経済安全保障の予算で146億円がロケットと衛星の部品で今回補正予算において確保されていますが、これの基金についても執行を早期にというのは政府全体の方針で示されているので、そういうことで我々としては世界との競争にもしっかりと勝っていきたいということです。

それから、先ほどのユーザーの水稲の利活用については、農林水産省のほうから具体例として出ましたので、民間が今後やっていくのか、官がするのか、御説明いただければと思います。

#### ○農林水産省

行政の取組として3ページで2つほど御紹介しました。一つは水稲の作況調査ですが、これは私ども農林水産省の統計関連の部署が毎年行っておるものですから、民間のサービスを利用させていただきながら、実施主体は農林水産省自らやっていくということでございます。

それから、市町村のほうの取組でございますが、交付金の算定の基礎になります何が植わっているのかということの確認でございますが、これも交付金の仕組みが変わらない限りは市町村が取組主体としてやっていただくということでございます。

#### ○青木委員

円安ですとか様々な問題はありますけれども、合計が1兆500億円に近い数字になったということは本当に感無量の思いでした。関係した皆様に深くお礼を申し上げたいと思います。

今、開発も利用も全て重要なことについて説明されましたけれども、宇宙には、国際秩序、国際協力の機会の重要性を示すというところがあると思います。その点でも、今のようない国際情勢ですから、国際共同探査において必ず日本が予定どおりに義務として手を挙げたことを実現させることによって、国際秩序というものをつくっていく力を持つ、信頼の置ける国であるということを示していただけるように、頑張っていただきたいと思います。

ここから少し質問にも入るのですが、片岡委員がおっしゃったことに関係するのですが、日本はここ10年、非常に頑張っって様々な開発・利用を進めてきましたけれども、世界の進み方が非常に速いということで、例えば総務省の自律性確保に向けたインフラ整備事業、コンステレーション、非常に重要なことだと思います。困難ですが、なる

べく国産ということが自律性確保のために重要だと思いたすが、今、2ページで、衛星の調達、衛星の打上げ、地上設備の整備などに支援を行うというところで、衛星の輸送手段というのはどういうふうに今、考えていらっしゃるのでしょうか。打上げが来年ということはないかもしれませんが、来年からもう始めなければいけないのかもしれませんが。私、この点について存じ上げないのですけれども、どういう予定が立っているのかということをお教えていただけないでしょうか。

特に、日本が残念ながら今時点では輸送手段を持たない状況になってしまっているということで、最悪の場合を考えて、どのような計画があるのかということをお教えていただけたらと思いたす。

#### ○総務省

今、2ページ目を御覧いただいているかと思いたすが、先ほども御説明いたしましたが、早ければこの夏に事業者が決定する予定でございます。その後、もちろん速やかにプロジェクトに移りまして、早ければ打上げも今年度中には1機でも2機でもという意気込みで今、動いているというものでございます。

打上げの場所あるいは衛星自身の話でございますけれども、国産というのがどこまで実現できるかというのはなかなか難しいと思っております。今、詰めておりますけれども、公募の要件におきましては、国産の衛星等々を記載する予定は今のところございません。打上げの場所も、日本国内でできれば少しでも打ち上げたいという思いはございますが、たくさん機数を上げますので、全ての機数を日本国内で打ち上げるということもなかなか現実的には難しいと思っております。今、我々が一番やりたいと思っている通信サービスの自律性確保に向けて、スピード感を持って何ができるかというところから考えているというものでございます。

#### ○松尾委員

内閣府からの説明で、定員が倍増したというお話があったかと思いたす。その中で、ほぼ倍増ということで、かなり増えるということではあるのですけれども、その増え方について質問です。これまでは各省からの出向という形でかなりの人が来ていたかと思いたすが、どういった形で増えるということになるのでしょうか。今後、内閣府の宇宙開発戦略の事務局としてもかなり仕事が多岐にわたってくると思いたす。

定員が増えましたので、プロパーの方として増えるのか、それとも出向の方として増えるのか、どういった人の割合といたすか、その辺についてお知らせいただければと思いたす。

#### ○風木局長

我々が今、実際の実員ベースでは約70名超おりました。各省からの出向関係で、常駐で編入をしている方などがおられますし、各企業から技術参加のような形でアドバイスいただいている方もございます。

昨年も19名から34名に倍増してまして、34名から今度62名になるのですが、その過

程で、例えば独自に採用するという事なので、任期付任用の弁護士の方を複数採用したり、それから官民交流法で、具体的に単に参与という形ももちろん形式としてあるのですが、官民交流という形で公務員としての採用になるというケースも出てきております。具体的に併任している常駐の方を実際に定員化するという事ももちろんありますし、同時に独自に採用しているケースもありまして、そういう意味では多様な人材を必要な業務にしっかり確保できるということでもあります。まだこれでも足りませんので、今後も引き続き努力をしていきたいと考えております。

○櫻井委員

私からは、この委員会での議論の在り方に関連してお伺いしたい点の一つがあります。今回の資料で、警察庁と外務省は参考資料扱いになっているのですが、どうして参考資料になっているのかということが一つと、さはさりながらメンバーなのでしょうから、一言ずついただくとありがたいと思っております。お願いできますでしょうか。

○風木局長

今回は欠席になっていまして、御指摘の点はお伝えしたいと思えます。具体的には資料をもって説明をさせていただくという形を取っており、今回は会議のテーブルには座っておりませんが、御指摘がありましたので、次回以降の扱いはまた考えていきたいと思えます。

○櫻井委員

それから、警察庁がおられないのだったら伝えていただきたいのですが、資料の作り方がほかの省庁に比べると地味なので、デモンストレーションの場ですから、しっかりとしたものを作っていただきたいという要望があったということをご伝えていますでしょうか。

○風木局長

しっかりお伝えしたいと思えます。

参考資料扱いにしてしまったのは、外交のところはJICAの話が入っていて少し新しいのですが、全体的な規模感その他を含めてこうなっております。重要な御指摘ですので、外務省と警察庁にはしっかりお伝えしたいと思っております。

○白坂委員

4点あるのですが、3点はコメントで1点が質問になります。

まず、1兆円を超えたということで、本当にありがとうございます。ずっと1兆円を目指してという話を長年やってきた中で、とうとう超えたというところで大変うれしく思っています。コメントとしては、これまでずっと増え続けて、宇宙に対して国がすごく力を入れているのだというアピールにもなってきたわけです。今回、1兆円を越えたのですが、結構瞬間風速的なものもなくはない。来年がこのまま増えていくのか、もしくはちょっと減るかもしれないといったときに、それが国が力を入れなくなったように思われてしまうと、間違ったアピールになってしまう、間違った伝わり方になってしまうかなと思うの

で、そこは注意が必要かなと思います。今回のように次もうまくいくかどうかは少し難しいところもあるかなと正直思っていますので、そういった意味では、今後の予算の増え方の伝え方は注意が必要かなと思っています。

2つ目がサプライチェーンのところ、先ほど片岡委員や青木委員からも出てきたところに関連するのですが、サプライチェーンを考えると、解像度を上げないといけないかなと思っています。今、日本にない重要な技術を日本でつくらなければいけない、これはまさに経済産業省がやってくださっている。日本でそれを実現するというものがあるのですけれども、一方で、サプライチェーンがちゃんと生きていくためには数がちゃんと出ていかなければいけない。こちらはどちらかというと片岡委員や青木委員がおっしゃったような、たくさんの衛星を早く上げるとか、ロケットをたくさん上げるということが重要だと思っています。ここがちゃんとなっているかどうかという点が、今後発注されていって、サプライチェーンをちゃんと生かしていくという形になると思うので、単純につくれば、新しい技術を持ち込めばいいだけではなくて、そのつくったものがちゃんと使われる流れをつくってあげることが重要かなと思います。最終的には利用側がドライブするしかないかと思っていますので、その辺りサプライチェーンについても少し分解能を上げながらの議論が要るかなと思っています。

3点目のコメントとしては、JAXA予算が増えたのは大変うれしいなと思っていますが、役割の増加具合に対して予算の増え方は正直足りないかなと思っています。今すごくJAXAに対する期待が増えていて、やってもらうこともたくさん増えている。一方で、難しい技術開発もやっていかないと先が続かない。そういった意味では、もっとJAXA予算は増えていかなければいけないと思います。やっとならプラスに転換したのですが、まだまだこれは持続が必要かと思っています。

最後は質問になるのですが、データ利活用のところで今回、例えば農林水産省が行政事務で農地のために使っていただき、あと国土交通省の災害時の被災状況把握、インフラのメンテナンスのところ、あと環境省のGOSAT以外にも衛星データの利用をしてくださっている。この辺り、すごく利用省庁側はドライブしてくださって、非常にいいなと思っています。質問は、内閣府がやっているスターダストプログラムで衛星データをいろいろな省庁に使っていただいた結果として生まれてきたものなのか、そうではないのか。まだまだそこまで行っていないかもしれないので、あの取組はすごく良く、各省庁では自分でお金をつけるレベルまで行っておらず、試しをまずやったところなので、少し時間がかかるかなと思っているのですが、今回、その成果からつながっているのか、そうではないのか知りたいなと思い、質問させていただきます。

○猪俣参事官

全部ではありませんが、スターダストプログラムでもいろいろそういった試行錯誤をしながら進めたというものもございますが、そうでないものもあり、各省庁で進めたものもあるという意味では、複数、いろいろあるかなと思います。

○白坂委員

幾つかはそのつながりでなったものもあるということで、それであればすごくいいかなと思います。

○経済産業省

宇宙戦略基金のほうで、ない技術をしっかりつくるということもやりながら、あとはつくるだけではなくて、しっかり量産していかなければいけないといったことで、今回また別途補正予算といった形で経済安全保障の観点で量産の予算も取らせていただいております。しっかりサプライチェーンも強化しながら、あとは経済産業省として取り組んでいることですが、供給側だけではなくて需要サイド、供給と需要双方取り組んでいかなければいけないと思っておりますので、供給だけではなくて需要サイドのほうもしっかり各省と協力しながらやっていきたいと思っております。

○文部科学省

JAXAの予算についてはおっしゃるとおりです。役割の拡大に伴って、マネジメント機能もそうですし、それからインフラの維持あるいは拡大というところに当初予算が必要だということは、我々は強く認識をしております。

今回、令和8年度予算で少し微増になったのですが、これは内閣府のほうから相当御支援をいただいて、我々も財務省と相当折衝した結果ですけれども、まだまだこれから必要だと思っておりますので、マネジメント機能あるいはインフラの維持・高度化というところをどのようにしていくのかというところをさらに見える化して、予算獲得に取り組んでいきたいと思っております。

○常田代理

先ほどの青木委員の質問に対する総務省の回答にちょっとびっくりいたしました。1500億円のコンステ事業で、国産部分がなしにほとんど外国から持ってこなければならぬのなら、その必然性があるということをちゃんと総務省から説明してもらわないといけないと思います。1500億円だと試験的に運用を行うレベルではなくて、実用的なインフラの構築ですよ。経済安全保障やサプライチェーン強化などが叫ばれる中で、今回はこういうノウハウを獲得するためとか、将来は国産化するとかの説明が必要です。

○総務省

まず、我々は今回、事業者を公募する予定でございます。その公募要件には、国産衛星を調達しろというのは記載する予定ではございませんが、衛星自体の部材とか部品をなるべく日本のメーカーがつくっている部材でつくられた衛星をなるべく調達するということは検討しております。

衛星自体を100%国産でやるべきだというお声も、我々ももちろん承知しておりますけれども、他方でスピード感も重要と思っておりますので、今できること、つまり先ほど申し上げた部材は少なくとも国産をなるべく多く衛星に入るような努力もしながら、第一に優先すべき通信の自律性確保を前提にプロジェクトを仕掛けていきたいと考えてござい

ます。

○常田代理

説明いただきましたけれども、依然として気になるので、どういう枠組みでやっていくのか注視していきたいと思います。

○片岡委員

今の関連の質問ですけれども、製造しないで調達してしまうということなののでしょうか。国内で製造拠点を設けたりはしないと。衛星調達をしてしまっ、それを打ち上げてやるということなののでしょうか。

○総務省

今、御指摘のとおりでございます。再度御説明いたしますと、公募する内容は、衛星通信をコンステレーションでやる事業者をまず公募いたします。通信をやる事業者を公募いたします。それに使う衛星につきましては、いわゆるその公募を受託した通信事業者等々が国産衛星あるいはその他のメーカーを含めて調達すると。かつ、打上げもそれに合わせてどこどこで打ち上げるかということをお任せするということでございます。

○片岡委員

PFIみたいな形でやられると。

○総務省

国費は、今日御説明した1500億円は補助で使わせていただきますが、実際の運営自体は民間事業者の運営ということになります。

○片岡委員

PFIみたいな形ではなく、一本でやってしまうと理解しました。

一部、将来的に衛星の国産化も視野に入れていただきたいと思います。衛星は順次落ちてきますから、2世代目、3世代目、と世代が進んでいくにつれて国産化も追求する。ライセンス国産みたいなことも選択肢かと思えます。

○総務省

リプレース等があるかと思えますので、その辺りは今後の市場の動向、産業の動向、それから事業者の動向を見ながら、もちろんそういうコメントをいただいているのも承知してございますので、進めていきたいと考えてございます。

○片岡委員

ぜひそのところは十分検討していただければと思います。

○後藤委員長

私のほうからも1つ質問です。経済産業省の1ページ目の1. で「現状の宇宙利用・衛星製造・打上げ機会が相互に成長を制約し合う構造を打破し、技術を成長のサイクルへとつなげていく必要がある」と書かれているのですけれども、この文章をもうちょっと具体的に分かりやすく説明していただきたいと思います。多分1と2は絡んでいるのだろうと思うのですけれども。

## ○経済産業省

こちらでございますが、我々、やはり事業者に聞いておりますと、例えばロケット事業者に聞きますと、国内で打ち上げる衛星が少ないのではないかと言ひ、衛星事業者に聞くと、いやいや衛星のデータの利用が少ないのではないかと言ひ、お互いがそういうふうに、ある意味で三すくみの状況と言っておりますが、そういう状況が現状だと思っております。

そして、長年なかなか限られた官需の世界でやってきたといったこともあって、サプライチェーンもある意味そこで安定してしまっている状況がございます。我々は一旦そこを不安定化する意味もございまして、ぜひそこにカンフル剤を打ち込んで、弱みがほかの成長を引っ張り合うのではなくて、強いところが成長を引っ張り上げるという形にして、ぜひ右のようにくるくる回る形にしていきたいという思いでございます。

## ○後藤委員長

ありがとうございました。重要なポイントだと思いますから、よろしく願います。

## (2) 宇宙戦略基金の進捗状況等について

＜JAXA石田宇宙戦略基金プログラムディレクターおよび事務局より説明＞

## ○常田代理

今の石田PDの御説明で、JAXAの役割というところの問題提起が非常に大事だと思っております。

民間事業者を見ていますと、技術基盤が弱い、それからマネジメントが弱い場合があります。これは批判ではなくて、新しく宇宙事業に入ってきているのだからしょうがない面がある一方、JAXAには、民間事業者の足りていない部分に見事にフィットするようなものを持っている人やグループがいる場合があります。JAXAと新規参入の民間事業者の間にファイアウォールがあるために、JAXAが基本的には審査側にしかおらず、プレーヤー側で活動できないということがあります。一方、既存のファイアウォールを緩めると、見境がなくなってしまう、やり方はよく考えなければいけないのですけれども、今の分断状況により、日本国として結果を最大化するところができるのに、できていないというのが見られます。JAXA資料の②で提起したことを、具体的な交通整理は要と思うのですけれども、ぜひ一歩踏み出してもらいたいというのが現場を見ていての意見です。

## ○白坂委員

ステアリングボードのメンバー側でもあるので、議論してきているメンバーなのですが、どれも重要なのですが、私も常田先生と同じで、3番は根本的にもととのスタート地点の概念が変わるものになってしまっていますが、絶対的に必要だと思っております。JAXAが持っているものと組み合わせたほうが、圧倒的に成果が出てくるというものが幾つもありますし、JAXA側もこれがあるので、JAXA側で何かをやるときに、その可否を聞かざるを得

なくなっているというすごくもったいないことも起きている。今おっしゃっていただいたとおり、どうやってそれをきれいにやっていくかというのは考えなければいけないのだけれども、これは考えるだけの価値があるといえますか、絶対にこれを考えて、日本としては効率的に最大限の成果のためにはここがもう本当に必須かと思っています。ぜひこの辺り、どうやるか、これから細かいところは相談になるかと思うのですが、ぜひここは進めてもらえばなと私も感じております。

#### ○山川理事長

御提言ありがとうございます。非常に答えるのが難しいですけれども、基金の立てつけというか、そもそもの概念からして今の運用の仕方、運営の仕方になっていますので、利益相反の観点特に考慮すべき事項で、毎回の審査において必ず利益相反の観点を審査した上で、審査員のほうもそうですし、JAXAの管理の仕方も当然そこを考えていく必要があります。この壁が取り払われた場合に、その辺りが非常に複雑になっていくので、そうしたルールを明確化していくということが、利益相反に限らずあらゆる点で大切だと思っているということをまずコメントした上で、一方で、日本全体として基金のお金が本当に有効に使われるためには、いろいろな工夫を上げるというのは御提言のとおりだと思っています。

#### ○青木委員

この基金の重要性とJAXAの役割というところの難しさということをお伺いいたしました。公平、自律であることの重要性と、もう日本は時間がありませんから、オールジャパンとしてどういうふうにも成果を最大化していくかというところで難しい部分があると思うのですけれども、今、利益相反を一つ例として挙げていただきましたが、何が問題か、どこがどういう規則で阻害されているのかということ、非常にお忙しい中申し訳ないのですけれども出していただいて、必要ならば法改正も含めて何かできないか、基金の途中ではありますけれども、成果が最大に出るような方策を考えていけるような、もう少し詳しい資料を頂けたらと思います。

そして、少し関係するかもしれませんが、ステージゲートに入って加速・減速・中止というところで、日本全体として最大の成果を出すためにも、中止すべきものについては早急に行い、加速できるところに集中していく。そして、JAXAの力も使っていくという形で最終的な成果が出せたらと願っています。評価において情け無用なくということも必要なのだということをもた審査のときに再確認していただければと思います。

#### ○山川理事長

そもそも宇宙政策委員会の場面で、しっかりと中止も含めてステージゲートを進めるという議論がなされていること自体が我々の後押しになっておりますので、非常に強いメッセージをいただいたと昨年来ずっと感じております。これからは正念場ですので、実際の後押しをいただいた上で、きっちりと審査していく、評価していくことをやっていきたいと思っています。

## ○櫻井委員

石田PDの御説明を伺いまして、改めて野心的なプロジェクトであると思った次第で、その情熱が少しでも実るといいと思いながら資料を拝見しておりました。

コメントとしましては、やはり宇宙の議論はとにかく基本的にフロンティア分野なので前例などがなく、従前の考え方と違うやり方でやっていかざるを得ないというか、そういう領域なのだろうと理解をしております。

提言をいただいたのですけれども、まず1つ目のそもそも市場のマーケットの創出と、それからサプライサイドの充実についてです。技術系のいろいろなプレイヤーの活動の場をつくっていくということなので、その両方を一遍にやるというプロジェクト自体が、需要と供給の両方を一緒につくっていくという点は特異な特徴だと思いました。これは従前の二元的な整理とは違う新しい角度の取り方だと思います。

それから、JAXAの役割について御議論がございましたけれども、なかなかJAXAも厳しい立場にあり、自分もプレイヤーの一人ですし、ついこの間まで研究機関だったはずで、突然資金の配分機関になれといわれても、両者は全く違う性質のものであり、容易ではないと思います。いずれにしても資金を配分していくという問題領域については、従前やったこともないようなことをしっかりと様々な目配りをしながらやっていくということになるので、一朝一夕にはできませんし、体質改善はなかなかできないと思います。

そういう場合にどういうやり方をしていくかということ、一応組織体制としては現在ステアリングボードをはじめとして、お話を伺うに、稠密な体制で精力的に活動しておられるということはよく分かります。ただ、先端的な技術で開発途上の試みで失敗することも多い分野の技術の話になりますので、ステークホルダーではない一般の人たちとの関係ではなかなか理解を得にくいし、社会的な意味での接点も少なく、一体どこに意義があるのかについては分りにくいといわざるを得ません。個々のプロジェクトは孤立気味であり、そういう性質がもともとあると思います。主として技術的な観点から、今の体制でJAXAを中心として少し行ったり来たりしながらやり取りをするというのは、これはこれとして進めていただく必要はあるのだろうと思います。

もっとも、一般社会と非常に距離があって、辛うじて宇宙政策委員会がコミットする形にはなっていますが、その関与の在り方は、現状、非常に薄い形でコミットしているにとどまっています。ここが数少ない社会との接点みたいなところがありますよね。窓口と言うのですかね。そうすると、話の進め方としては、恐らく宇宙政策委員会のコミットをもう少しブレイクダウンして、中身の話についても少し関わっていくという方向感を持っていくということが今後は、今回はともかくとしましてマストになってくるのではないかと思います。

この委員会はすごく大づくりなので、こんなところで抽象的なことを言っても意味があるのかないのかよく分からないところがありますけれども、少なくとも事務局レベルでは、内閣府という意味ですが、もう少しJAXAとの関係で丁寧に連絡を取り合いながら、様々

な問題を個別に投げたり、あるいは御相談を受けたり、議論をしたりという筋を作るということを考えていってもいいのではないかと思います。

○風木局長

2つのポイントがあるかなと思ひまして、一つは宇宙政策委員会が国民目線との接点になるということでもあります。ちょうど2年前に、今、総理になられました高市宇宙政策担当大臣から、国民目線での広報活動、情報発信が足りないという御示唆を受けて、宇宙政策委員会で動向資料や国民目線の資料を出し始めたというのがございます。不断の努力を今後もしなければいけないなと思っておりますので、例えば今回からも、宇宙政策基礎資料というのが目次の中に入っております、櫻井先生の御指摘の世界から非常に軌を一にした取組ですけれども、基本的なデータとか統計とかはできる限り国民目線で分かりやすく定期的に発信するというのも内閣府としてもやっていきたいなと思っております。こういう資料をまずベースとして国民目線で見てください、その上で、各省いろいろな議論がある中で、それを紹介していただくということにしていきたいなと思ひます。

それから、2つ目は特にJAXAと内閣府を含めた関係省庁の連携の強化という話です。宇宙政策委員会にJAXA分科会がございまして、白坂先生に分科会長をやっていただき、4府省含めてですけれども、毎年、内閣府でも非常に緻密なJAXAの評価をやっております。これに加えて様々な、例えば骨太方針をつくって、先ほど文部科学省の坂本局長からありましたが、文部科学省と内閣府で協力して、JAXAの技術基盤や人材や予算を当初予算で反転して増やすという取組を積極的に行っており、今の御指摘、まだ道半ばですけれども、しっかり取り組んでいきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。今日のコメントはしっかり受け止めさせていただきたいと思ひます。

○櫻井委員

違ふと思ひます。まず1点目ですけれども、国民目線というお話がありましたが、私が申し上げているのは広報の話ではありません。それほど簡単に広報できるような内容ではないので、まず、インナー的な人ではない人との間でしっかりと理解をしてもらうということが大事で、そこは相互のコミュニケーションが必要です。そういうコミュニケーション自体がなされていないので、基礎資料のほうに出てくる22のテーマなど具体的に挙がっていますけれども、これが一体どういう意味を持って、どういう技術で、これができたらどういういいことがあるのかということ、全部やる必要はないかもしれませんが、もっとディテールに入った形で、こういう技術で、こういうことを企図して、これができたらこういうふうになると、そういうものを開発していきたいのだというようなことが、宇宙政策委員会との間で共有されているとは思ひません。いずれにせよ、広報の話ではない、そこまでいっていないということ、国民目線が出てくるのはその後です。まずはこの委員会内部でのやり取りが重要だと思ひます。

2点目は、分科会があるということですが、分科会をどういうふうにか動かすかということとは直接連動しません。私が申し上げているのは、あくまでも基金という問題と

の関係でどうなのかということなので、その分科会に落とすならば落とすとしても結構ですけれども、今やっているという話とは違うのだらうと思います。

○風木局長

今の点はしっかり受け止めさせていただきます。

研究開発の成果をもうちょっと整理しようという話は宇宙戦略基金の中で出ていますので、成果の広報資料を伝える前にもしっかりもまなければいけないという話はJAXAともよく議論していますので、しっかり対応していきたいと思っています。

あと、分科会との関係は、今後しっかり基金をどう評価していくかということになると思うので、今は本委員会のほうでしっかり見ていただくということで、よろしく願います。

○後藤委員長

私のほうからも若干コメントすると、宇宙戦略基金がスタートしたときに、宇宙政策委員会で、この基金はもう絶対に成功させなければいけないという話をしました。いろいろな基金があったわけですけれども、それこそ泡沫のように生まれては消えというような批判もあったわけで、宇宙戦略基金については絶対に成功させなければいけないという、これはもう皆さんのコンセンサスだったと思います。

そういう中で、一つはJAXAとの関係をどうするかということで、はっきり言って当時の議論とすると、いわゆる投資案件だとか、お金の取扱いということについては、しっかりとやる必要があるだらうということで、石田さんにプログラムディレクターになっていただいて、ステアリングボードをつくったわけでありまして。

このステアリングボードがスタートして、今日のプレゼン資料も大変よく作っていただいて、ステアリングボードの皆さんが大変よく活動していただいているというのは、私も大変力強く思っております。

その中で、皆さんがおっしゃっているように、質の問題をどうするかという議論があります。したがって、加速・減速・中止の判断を明確にやっていくということが重要で、以前も申し上げましたが、その案件をいかに目利きするか、本当にこれが将来的に有望な案件なのかどうかというのをしっかり見極めていく必要があるだらうと思います。現時点において全部で200件あるのだけれども、広く薄くではなくて、これをしっかりと、言わばスクラップ・アンド・ビルドして、絞り込んだ上で深く厚くやっていくというプロセスが今後必要になってくるだらうと思いますし、その過程の中で、ステアリングボードもそうですし、JAXAもそうですし、それから、宇宙戦略基金をつくったときに、宇宙政策委員会としてもしっかりと絡んでいくという話を申し上げたわけでありまして、櫻井委員の御指摘も、これからしっかりとそういうプロセスの中でやっていくということだらうと思うので、ぜひよろしく願いたいと思います。

(3) H3ロケット8号機打上げ失敗の調査状況について

<文部科学省およびJAXAより説明>

○後藤委員長

H3ロケットは、言うまでもなく、我が国の宇宙活動の自律性確保と国際競争力強化のために重要な基幹ロケットであります。今回の打上げ失敗の原因究明を確実にかつ速やかに進めていただき、打上げを待つみちびき7号機については、可能な限り早期に着実に打ち上がることを願っております。

(4) 航空・宇宙ワーキンググループについて

<事務局より説明>

○後藤委員長

青木委員、白坂委員、松尾委員、そして石田さんにおかれましては、本ワーキンググループの構成員に御就任されましたので、これからよろしくお願ひします。

本ワーキンググループで検討されるテーマは、いずれも重要事項であります。宇宙政策委員会でも議論して、官民連携ロードマップ案に反映させていければと思います。

(5) その他

○山川理事長

まずはH3ロケットの件、スピード感を持って原因究明対策、そしてReturn to Flightを早く実現したいと思っておりますので、引き続き皆様の御協力を含めて、どうぞよろしくお願ひいたします。

そして、宇宙戦略基金、ステージゲート審査に関してもしっかりと取り組みたいと思っておりますので、引き続き後押し等をよろしくお願ひいたします。

以上